構造改革特別区域計画

１　構造改革特別区域計画の作成主体の名称
　小田原市

２　構造改革特別区域の名称
　ＬＤ、ＡＤＨＤ等の不登校児童生徒の個に応じた「生きる力」を育む教育特区

３　構造改革特別区域の範囲
　小田原市の全域

４　構造改革特別区域の特性
　小田原市は、神奈川県西部に位置し、東西１７．５ｋｍ南北１６．９ｋｍ、面積は１１４．０６ｋ㎡、人口２０万人で、市内に市立小学校２５校、市立中学校１２校、私立中学校１校を有しています。総合計画の基本構想では、５つのまちづくりの目標と１５の施策の方向の中で、多様な文化活動や教育、学習を通して、誰もが個性や才能を発揮することができる文化創造都市を目指しています。
　また、平成１６年４月には、「小田原市教育都市宣言」を制定し、学校教育分野については「小田原市学校教育推進計画」に基づき、教育の行き届いたまちづくりを進めています。
　この学校教育推進計画においては、３つの基本目標として「創造性や論理的に考える力を持った子どもの育成」「コミュニケーション能力を身に付けた子どもの育成」「健康な心、健康な身体を持った子どもの育成」を掲げ、さらに具体的な目標として「特色ある学校づくり」「時代の変革に対応した教育の推進」「開かれた学校づくり」「子どもの生きる力の醸成」「安心して学べる場づくり」を掲げています。
　これらの方針の下、本市教育委員会では、通学区域制度の見直しや２学期制の導入など学校管理制度の検討を進めるとともに、学校においてはスクールボランティアの導入や小中一貫教育など特色ある教育を進めていますが、特に教育委員会及び学校が一体となって研究、実践している課題の一つに、「時代の変革に対応した教育の推進」の施策の方向に位置づけられている「今日的な課題への対応」が挙げられます。
　なかでも、不登校児童生徒への対応や障害児教育については、本市も様々な施策を展開しています。不登校児童生徒や現在は不登校ではないが今後不登校になるおそれの大きい児童生徒への対応、障害をもった児童生徒への対

応などについて、教育委員会では、リーフレット「不登校の解消に向けて」の作成、不登校対策委員会の設置、情緒障害児童を対象とした通級教室の開設と心理相談員の指導の充実、特別支援教育としての指導補助員（介助員）の配置や就学指導委員会、障害児教育推進協議会の設置、ことばの障害に対応するための「ことばの教室」の充実、少人数学習に対応するための個別指導支援スタッフの配置、不登校等の相談指導と不登校児童生徒が学校以外に通うことができる場所としての「教育相談指導学級」などの各種施策を展開してきました。

また、学校や教育研究所等における事業としては、文部科学省関係の研究事業として、「不登校児童・生徒の適応指導総合調査研究（スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業）」「スクールカウンセラー活用事業」のほか、本市立小学校（１校）が「学習障害児等調査研究協力校」の研究指定校として８年間研究を重ねてきた実績があります。さらに、神奈川県教育委員会関係の事業では、「いじめ対策校内研修事業」や「児童・生徒指導推薦研究」などを推進し、本市教育委員会の事業としても、「学校カウンセリングに関する研究」や「インクルーシブな学校づくり」「不登校改善のための学校づくりへの挑戦」「指導に配慮を要する子どもの対応に関する研究」などを研究してきました。

このような不登校やいじめなど今日的な課題に対する、教育委員会と学校との協力しての取組は、一人ひとりの課題の解消など確かな成果をあげています。しかしながら、教育を取り巻く環境の変化は激しく、障害者への支援対策など教育施策の一層の充実を図るとともに、潜在的な児童生徒への対応も含めて、不登校や学校不適応行動の児童生徒への専門的な対応の必要性は増大しています。特に、ＬＤ、ＡＤＨＤ、広汎性発達障害などによる不登校の子どもたちなど、治療的な教育を要する子どもたちに対して、それぞれの障害を理解した上で個々に応じた教育を提供できる機関の必要性が増大しています。

本市の教育における様々な取組実績や恵まれた自然、文化的資産などの特性は、専門的教育を実践する湘南ライナス学園に通学する児童生徒の学習成果を高めるとともに、一層の専門性の発展に寄与するものと考えられます。また、湘南ライナス学園の教育活動基盤が強化されることは、小田原市民に対し多様な選択の機会が提供されることになり、教育の行き届いたまちづくりの新たな特徴になります。さらに、首都圏に位置する交通の利便性の高い本市の特性を発揮し、本市に質・量ともに充実した高度の教育に関する情報が寄せられ、専門家の交流が活発化することにより、新しい教育の成果が全国へ再発信されることが期待されます。

なお、湘南ライナス学園が移転希望している地域は、本市の中心市街地活性化基本計画において中心市街地として位置づけられた区域に隣接しており、自然に恵まれた伝統の街並み中に、教育施設や商業施設などを有する地域です。このたび、旧国立療養所箱根病院の独立行政法人化等に伴う機能の見直

しが進められており、地域内施設の有効な活用が求められています。

5　構造改革特別区域の意義

ＩＴ化など急速な科学技術の発展、少子高齢化など社会構造の変化や安定成長時代など社会の成熟化に代表される時代の大きな変化の中で、子どもたちは自らの決定で、生きていく基盤を確立していかなければなりません。学校教育に限っても、不登校やいじめ、学習意欲の低下など一つ一つの課題に適格に対応しながら、人間性を高め、生きるために必要な知恵を一人一人が持つ個に応じた教育を実践していくことが大切です。

その中でも学校教育の現場においては、不登校児童生徒や何時不登校になっても不思議でない状況にある児童生徒の存在とその解消は緊急の課題です。しかしながら不登校の理由や原因は多様であり、また様々な要素が絡み合うことが少なくありません。

本市は、これまで国や神奈川県との連携した事業も含めて、積極的に不登校の解消に向けた取組を展開してきましたが、不登校に対して、十分な実績を有する教育機関が、地域の独自性を取り入れながら教育の一端を担うことは、不登校に対する専門性の確立や児童生徒に対する個に応じた多様な教育の確保の点などから大変重要であり、他の地域の不登校対策や教育の他の分野に対しても多大な波及効果が見込まれます。

この度、特別区域内において事業を展開しようとする学校法人は、ＬＤやＡＤＨＤの指導では全国的にも著名な教育機関であり、本市からの児童生徒の通学者も少なくありません。本市内において、民間活力を活用しながら、ＬＤ、ＡＤＨＤやその周辺の子どもたちに対する専門的教育が展開されることは、不登校及び障害があって指導上特に配慮を必要とする児童生徒を支援している本市の基本方針に一致するもので、各種教育施策と連携、補完することができるとともに、教育に対する市民の信頼性と利便性を向上させます。

また、本市立学校の教職員が、ＬＤ、ＡＤＨＤやその周辺に存在する子どもたちへの指導法を学ぶ実習現場として機能することも期待でき、本市の教育力が向上することは明らかです。市民にとっては、今後の「子どもを通わせる学校」の一つとしての選択肢が広がることも大きなメリットです。

さらに前述したように、この多様なニーズに対応する個に応じた教育の先駆的な取組とその成果を、全国の学校や教育関係者と共有し、わが国の教育分野の多様化・向上に向けて活用することが可能です。

そして、このような不登校児童生徒の一人ひとりへの対応や不登校児童生徒数の減少、他の教育分野や全国に対する成果の波及のみならず、本市にとっては、学校開設による転入者等の増加、教育活動の活発化による交流人口の増加、そして教育の行き届いた安心して暮らせるまちとしての定住人口の増加などが見込まれ、経済的波及効果が期待できます。

なお、ＬＤやＡＤＨＤなどに対する小・中・高一貫教育や専門的な教育課

程の編成等については、中長期的な指導が必要であり、既存の制度だけでなく、構造改革特別区域認定による特定事業の実施により大きな効果が期待できます。また、運営母体の継続性、安定性を確保し、信頼性を高めるためにも学校法人として認められることが望ましいと考えます。

6　構造改革特別区域の目標

この構造改革特別区域の目標の一つは、ＬＤ、ＡＤＨＤやその周辺の児童生徒たちに対する個に応じた教育を充実させることにより、児童生徒の個性を伸ばすとともに、十分な評価を通じ、その成果を全国的な取組へ波及させていこうとするものです。

ＬＤやＡＤＨＤなどの児童生徒の個々の教育ニーズを適切にとらえ、個別の教育計画による教育支援を行うことで、自己の実現を目指し、社会へ貢献する意欲を持った積極的人材を育成することは、まさしく教育の目標そのものといえます。

さらに、適切な個別教育計画による教育活動により、集団や社会への適応を図るということにとどまらず、地域社会を積極的に担い得る力を育てることは、将来にわたる社会的経済的リスクを減ずることになります。

また、ＬＤやＡＤＨＤなどに起因する不登校への対策は、全国共通の教育課題であります。本市の取組により、不登校等の教育課題に対する研究が深められ、その成果が全国各地への発信されることにより、それぞれの地域の特性に応じた取組が発展することを期待しています。

次に、目標の二つ目としては、教育環境の充実を通して本市の活性化を図ることです。

多様な教育環境が整備されることは、市民が安心して生活し、より積極的な社会活動を実践するためにも重要な要素です。ＮＰＯ法人ライナスの会が設置する学校に直接関係するスタッフや児童生徒とその家族の生活の場が確保されることによる地域活性化効果はもちろんのこと、学校と地域との交流による地域コミュニティの活性化や、学校間や教育関係者の交流による地域経済の活性化に対する大きな効果が期待されます。

そして、教育の行き届いたまちとしての都市イメージの向上は、他の行政施策や民間の活動と同調し合い、様々な相乗効果をもたらすことにより、市域全体の地域経済活性化に寄与します。

7　構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

構造改革特別区域計画の実施に伴う効果としては、学校の開校に伴う直接的効果と、教育の充実がもたらす波及的効果など様々な経済的社会的効果が見込めます。この取組を行政と地域と民間が一体となって進めることにより、

教育分野だけではなく、様々な経済的、社会的効果の創出が期待されます。

（１）ＬＤやＡＤＨＤなどの児童生徒に対する適切な対応

平成１６年８月現在、本市の１０人程度の児童生徒が、ＬＤなどで湘南ライナス学園に関わりを持っています。ライナス学園では、現在、約４０人の児童生徒を指導していますが、将来的には１００人程度の学校規模を予定しています。現在の学校教育に適応できない児童生徒に対し、湘南ライナス学園のような特色ある学校が実現すれば、確実にその児童生徒に対する適切な対応が保障され、その社会的効果は大きいものがあります。

（２）不登校児童生徒数の抑制、解消

平成１５年度の本市の不登校生徒数は小学校３５人、中学校２０８人で、ほぼ横ばい状況です。本市の教育委員会では、不登校生徒数を平成１８年度までに１／２にする取組を進めています。湘南ライナス学園とも連携し、ＬＤ、ＡＤＨＤに対する個別学習指導プログラムとカウンセリングを柱とした専門的な教育手法とその成果を実証することができれば、本市の不登校児童生徒数の解消に向けての取組に効果を発揮すると共に、全国各地の不登校解消への取組に寄与します。

（３）学校の教育力の向上

公立学校の教職員等が、個別指導やカウンセリング方法を学習し様々な教育に携わる専門家と交流を持つことは、専門的ノウハウの修得や従来の教育方法を検証する機会となり、教育の現場での独自の工夫や研究を重ねることにより、学校の教育力を全般的に向上させる効果があります。

（４）教育機関の充実による市民満足度の向上

ＬＤやＡＤＨＤなどに対する専門的な学習指導を必要としている児童生徒にとってのみではなく、教育の充実したまちで安心した家庭を築き、安定した生活を営むことは、市民の社会活動の活力の源です。専門的な学校による多様な選択肢のある教育の充実は、本市への愛着心と信頼感を醸成し、社会参加意欲を向上させます。

（５）地域コミュニティの活性化

開校予定地域の自然環境や伝統の街並み、教育施設や商業施設などの資源を活用した地域行事への参加など、地域住民との交流が図られることは、地域内に新たな息吹を創出し、コミュニティを活性化する効果があります。

（６）定住及び交流人口の増加

学校開設に伴い教職員スタッフや在籍する児童生徒及び家族の移住による定住人口の増加が見込まれます。また、専門性の高い学校の存在は、教育活動の場としてのポテンシャルを向上させ、全国の教育機関や研究者の交流を活発化させることが見込まれます。このような定住及び交流

人口の増加は、市域全般にわたる総合的な経済活動を活性化させる効果があります。

８　特定事業の名称

（１）　校地校舎の自己所有を要しない小学校等設置事業<番号：８２０（８０１－２）>

（２）　不登校児童生徒等を対象とした学校設置に係る教育課程弾力化事業<番号：８０３（８１８）>

９　構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

関連事業の内容

（１）不登校対策委員会

増加傾向にある学校不適応を示す不登校児童生徒に対し、小中学校と連携したきめ細かな指導支援策を検討するため、平成１６年度に、本市教育委員会に設置しました。

（２）特別支援教育推進事業

各学校の通常級に在籍するＬＤ・ＡＤＨＤ・高機能自閉症・アスペルガー症候群等、精神面で課題を持ち、学習や日常生活で様々な問題行動を起こすなど、学校生活に適応できない児童生徒に対し、学校に個別支援するための臨床心理士、医師などの専門家による教員のサポートや指導補助員（介助員）の配置を計画しています。

（３）情緒障害児童通級指導

通常学級在籍の特別な配慮を必要とする児童生徒に対して、行動上の課題の改善、能力的なアンバランスの改善を目標として社会生活の適応を高め、より豊かな人間性の育成を図るための通級教室を開級し、専門性を有した指導員による社会性や個々の能力・特性に応じた指導を実践しています。

（４）教育相談指導学級

心理的な理由などによって、学校へ登校できない児童生徒のために、学校以外に通うことができる場所を設置し、自立心の育成や集団生活への適応指導などを通して、学校復帰を支援しています。

別紙　構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業の内容、実施主体及び開始の日並びに特定事業ごとの規制の特例措置の内容

別紙１　≪820（801-2）≫

１　特定事業の名称

820（801-2）　校地校舎の自己所有を要しない小学校等設置事業

２　当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

ＮＰＯ法人ライナスの会によって設立される学校法人によって設置される学校

３　当該規制の特例措置の適用の開始の日

構造改革特別区域計画の認定の日

４　特定事業の内容

①事業に関する主体

ＮＰＯ法人ライナスの会が設立する学校法人

②事業区域

小田原市

③設置時期

平成１７年４月

④事業により実現される行為や整備される施設などの詳細

事業主体が、事業区域内の敷地建物（小田原市風祭 412 に、独立行政法人国立病院機構箱根病院が所有する、旧国立療養所箱根病院附属リハビリテーション学院：鉄筋３階建２１７５．４７㎡））を借り受け、学校を設置する。

なお、当該学校は、平成１７年４月から、ＬＤ（学習障害）、ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）や広汎性発達障害による不登校の児童生徒を対象とした、専門教育を実践する学校として開校する予定である。

５　当該規制の特例措置の内容

①　教育上の特段のニーズ

統計的には全国の不登校児童生徒数は減少しているが、本市の不登校児童生徒数は横ばいである。不登校児童生徒への対応は全国的な教育課題で、通常学級や相談指導教室などでも十分な対応ができない児童生徒が存在していることも事実である。本市においても個に応じた対応に努め、着実な取組を進めてきたが、障害のある児童生徒たちへの教育相談件数も増えてきており、現在、学齢期にある特別な教育的配慮を必要とする子どもたちに対して、実績のある教育機関の対応の必要性も増大している。

不登校児童生徒数の推移等　　（人：件）

	平成13年度	平成14年度	平成15年度
小田原市立小学校の不登校児童数	36	40	35
小田原市立中学校の不登校生徒数	211	201	208
小田原市の不登校に関する相談件数	379	515	494
小田原市の不登校以外の相談件数	88	111	111

＊　文部科学省　児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査

＊　小田原市教育委員会教育研究所集計

② 学校経営の安定性・継続性の担保

事業主体は、１９８６年に「ライナスの会」発足以来の長年の研究と実績により確立された、子どもたちの個性に応じた教育プログラムを実践している。

教育スタッフの確保については、現在の教員スタッフを含めて資格者の充足が見込めるほか、多数の各種専門分野の人的支援者がいる。

校舎、校庭等の確保についても、実施区域所有者の独立行政法人国立病院機構とは、長期的な貸借契約が見込まれ、継続性も確保できる見込である。

資金運営についても、フリースクールの堅実な経営実績があり、また多くの企業や団体からの各種支援についても、引き続き見込むことができ、計画的な経営が可能と思われる。

別紙２　≪803(818)≫

１ 特定事業の名称

803（818）　不登校児童生徒等を対象とした学校設置に係る教育課程弾力化事業

２ 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

ＮＰＯ法人ライナスの会によって設立される学校法人によって設置される学校

３ 当該規制の特例措置の適用の開始の日

構造改革特別区域計画の認定の日

４ 特定事業の内容

実施主体　　ＮＰＯ法人ライナスの会が設立する学校法人

事業区域　　小田原市

実施期間　　構造改革特別区域計画申請認可後から開始し事業終了とされるまで。ただし、小学１年生で入学した児童が小学校高学年に、中学、高校それぞれの１年生が卒業の年となる平成１９年度を区切りにして、評価と見直しを行い、その後事業を継続または事業内容の変更を検討する。

整備施設や内容

＜使用貸与施設＞独立行政法人国立病院機構箱根病院内の旧リハビリテーション学院建物

神奈川県小田原市風祭 412 所在

＜使用開始時期＞ 2005 年 4 月開校予定

５ 当該規制の特例措置の内容

（１）対象児童生徒

①　ＬＤ（学習障害）、ＡＤＨＤ（注意欠陥多動性障害）、広汎性発達障害による不登校の児童生徒を対象とする。

（２）取り組みの内容

当特定事業の実現のために次のような取り組みを行う。

①個別指導計画（ＩＥＰ）に基づいた教育支援

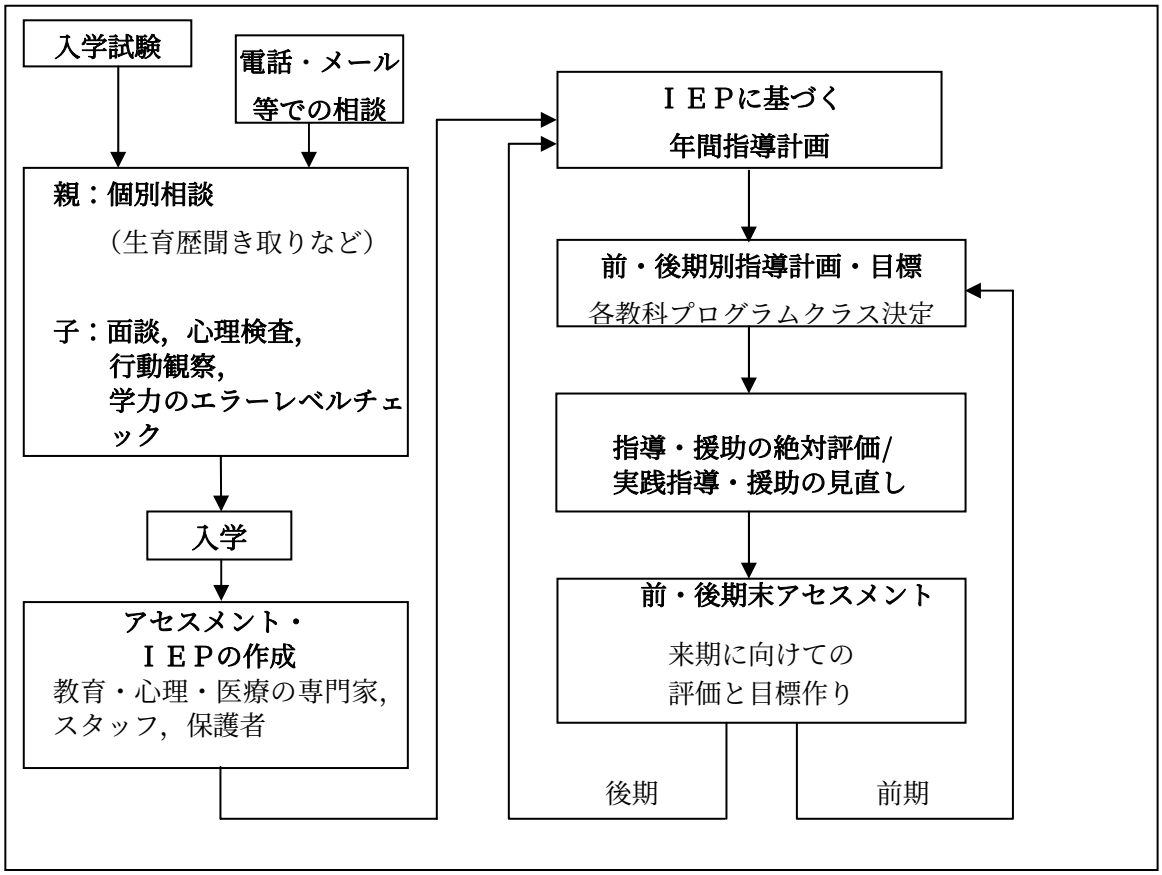
対象児童生徒は、それぞれの認知的特性から得意な面・苦手な面がそれぞれ違い、また指導援助法についてもそれぞれ異なる。

個別指導計画とは、心理面、発達面、学習面、生活面、社会性等を把握した上で、個別的な指導や配慮を総合した計画のことであり、指導の目標・方法・期間・教材・評価基準が立案されている。また、学期毎にその内容の検討を行い進めて行く。

対象児童生徒は、得意な能力と苦手な能力との差が大きいものの、将来その卓越した能力を十分に発揮できる可能性を持っている。その可能性を早期に見つけ伸ばしていくためにも、個人の教育目標に対するアプローチを明確に記したＩＥＰに基づいた指導は非常に重要である。

※ 入学から個別指導計画（ＩＥＰ）作成までの流れは、次ページの図Ａを参照。

図Ａ　［入学から個別指導計画（ＩＥＰ）作成までの流れ］



ＩＥＰ会議各専門者メンバー

・教育　濱田隆士（放送大学教授・東京大学名誉教授・理学博士・日本科学協会理事長・福井県立恐竜博物館館長）

・心理　杉渓 一言(日本女子大学名誉教授・日本家族カウンセリング協会会長)
石川 瞭子（川崎医療福祉大学助教授・臨床心理士・社会福祉学博士）

・教育心理　吉崎真里（日本カウンセリング学会認定カウンセラー・家族相談士）

・医療　金野 公一（横浜市南部地域療育センター前所長・発達小児科医師）

・福祉　石川 瞭子（川崎医療福祉大学助教授・臨床心理士・社会福祉学博士）
高橋 明美（幼稚園勤務障害児教育担当）

＊その他、スピーチセラピスト・作業療法士が参加。

②柔軟なカリキュラムの必要性

特別支援が必要な児童生徒の場合、本来の生来的特性を問題にする前に、二次的障害の強さを考慮しなければならないことが多い。このため、本校では二次障害のためのセラピーからカウンセリングなどの要素を活用したメンタルケアに力を入れるので、その年度の児童生徒たちのタイプに応じて、カリキュラムの構成を変更する。

それらは全て、心理・医療の分野からの診断、各種検査の結果、生育歴など保護者からの情報、本人からの訴えをアセスメント会議で検討し、ＩＥＰ会議において決定される。この会議では、教育・心理・医療・福祉の専門家が、スタッフと保護者とに加わり検討が行なわれる。

③個別指導計画に基づいたクラス編成・指導時間の配慮

ホームルームクラスは、学年ごとに編成するが、各教科プログラムは、習熟度、特性、状態等に合わせたクラス編成で行う。

個別指導計画に基づき、個別指導クラスから小集団指導クラスまで、その児童生徒に合ったクラスで教育支援を行う。

指導時間については、ＡＤＨＤを併せ持っているか、特性として集中が苦手であるか、二次的症状があるか等から適切な授業時間の設定、配分が必要である。

④児童生徒の個々の特性・状態に応じたトータルケアを実施

対象児童生徒は、生来的な認知的偏りが一次的症状としてあり、それが原因で学習面・心理面・生活面・行動面・対人関係等に問題を持っている。

周囲の無理解等の不適切な環境に置かれると、二次的症状を引き起こすことになり、その「状態像」は多様であり、対応もそれぞれ異なる。

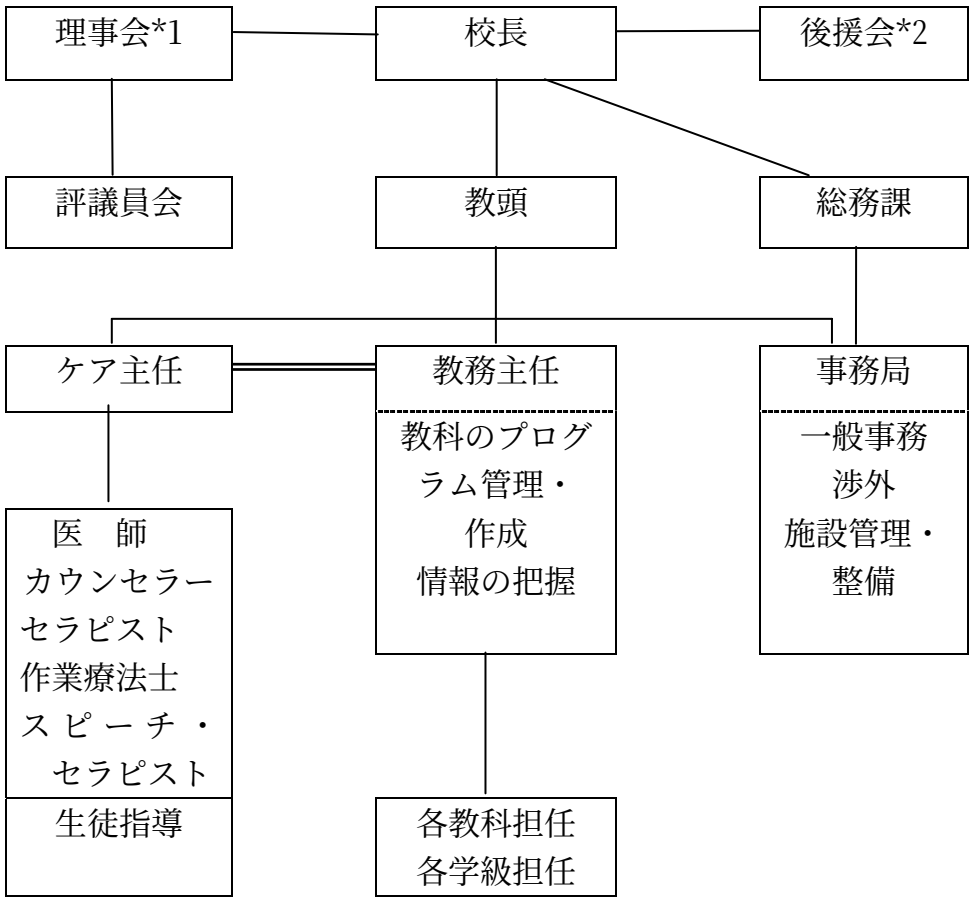
それ故に、教育だけでなく心理・医療・福祉の専門的な判断と個々の状態に合わせたケアが必要となってくるため、各々の専門家がその支援に携わる。

ドクターチェック → 日頃の児童生徒の発達、状態について、非常勤の発達小児科医が診察を行う。診察は、必要に応じて、保護者・児童生徒・担当スタッフが同席して行われる。医療面での家族からの相談に応じる。その他、年３回定期診察を行う。

ライフサイクルチェック → 家庭の中での児童生徒の状態等を掌握する為に、担任カウンセラーが、年１回保護者との面談、家庭訪問等を行う。また、問題等ある場合には、適時保護者との面談を行う。この結果を受けて、保護者・児童生徒のカウンセリングまたは、家族療法を行う。

※ 教育・心理・医療・福祉の連携による教育支援は、次ページ図Ｂの校務組織により行われる。

図Ｂ　[校務組織]



＊1 理事会　理事長を濱田隆士とし、学術・民間・企業の代表者からなる。

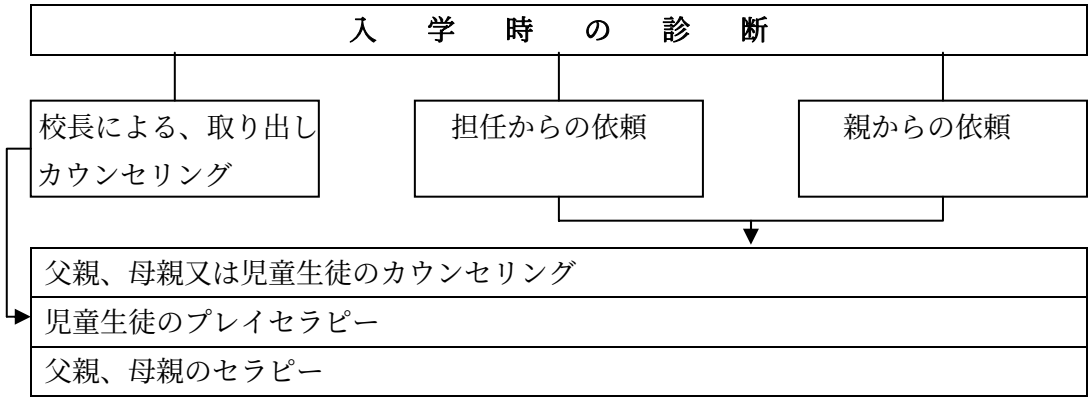
＊2 後援会　会長を地域の代表から選出し、会員は学校運営に賛同した企業・地域住民・その他広範な人材

⑤カウンセリング・セラピーを取り入れた教育支援

⇨ 対象児童生徒は、周囲から理解されにくく、また自分の能力を過小評価しがちであり、学習だけでなく課題に対して無気力になったり、学習や対人関係に対して拒否的になったりなどの二次的症状を持つことがとても多い。このような状態に対して、カウンセリング・セラピーを適時行うことができる教育支援を行う必要がある。

※ 詳細については下記図Ｃを参照

図Ｃ [心　の　ケ　ア　と　教　育]



家族療法
必要と認められた場合

ＬＤ、ＡＤＨＤ等の児童生徒は、二次的症状（無気力・自己不全感・うつ症状・被害者意識等）が強い場合が多い為、カウンセリングは適時、教科学習より優先され、授業のある時間帯も単発的ないし計画的に行なわれる。主任カウンセラー（校長）の許可なくして、学級担任及び教科担任は授業を受けさせることができない（入学時、親からは承諾をとる）。

また、カウンセリングは全ての児童生徒を対象に、年間に亘り順番に行なわれる。その順序はＩＥＰに基づき決められるが、学校生活の中でその時、最もカウンセリングの必要性が高い児童生徒が優先される。

⑥保護者の支援、家庭の支援を重視

⇨ 児童生徒への理解・対応の仕方がわからず、結果として不適切な対応をしてしまうことで、児童生徒に悪い影響を与えてしまったり、周囲の無理解から、子育ての仕方が悪いなどと非難され、保護者自身が孤立してしまったり等の悪循環により、児童生徒と家族とが追い込まれるケースが非常に多い。

このようなことから、保護者や家族を対象にカウンセリング・家族療法を行ったり、児童生徒への理解・対応の仕方を学習したり、保護者の自己成長を促すことを目的とした学習会を行ったり等の支援を行う。また、ＩＥＰ作成に当たり、検討会議に出席してもらい、現時点での状態・特性の共通理解、家庭との連携の仕方、家庭での対応の仕方について検討や情報交換を行う。

常に家庭と学校が、児童生徒に対して同じ方向を向いて、個々の状態・特性に合った支援が行えるようにする。

⑦将来を見越した教育支援

⇨ 中学部・高等部においては、地域への開放を積極的に行い、将来を見越してレベル・特性に合わせた、地域の中における実習・訓練を充実させる。

特異な能力のある児童生徒については、その特性を伸ばし、高等教育に向けて専門分野の指導者による指導が受けられるよう配慮する。

特性を早期に分析し、ハンディも個性の範疇として捉えつつ、良い面を伸ばすための指導を行なう。これには、長期のスパンでゆとりをもった教育を行なう必要があるため、小中高一貫教育を実施する。

※小・中・高一貫教育の流れについては次ページの図Ｄを参照

図Ｄ　[小・中・高一貫教育の流れ]

小学部	低学年	１学年 ２学年 ３学年	・担任制 ・基本クラス （ホームルーム）	・教科学習 ・レベル、特性別クラスによる学習
	高学年	４学年 ５学年 ６学年		

適正検査①

中学部	１学年 ２学年 ３学年	・担任制 ・基本クラス （ホームルーム）	・教科学習 ・レベル、特性別クラスによる学習

適正検査②

適正検査①②を加味してコースを決める。

高等部	○選択ー大学進学 　大学進学を意識し特性を活かした学習内容（学習指導要領に基づく科目を緩和して個々の有能科目を増やす）文系・理系に分かれて学習する。 ○選択ー農業 ①一般教養②農業実習③農業簿記，農業経営 ○選択ー情報処理 ①一般教養　②パソコンを中心としたＯＡ機器による実習③習熟度・特性別に班分け ○選択ー芸術 　音楽系　美術系

農業・情報処理・芸術の各選択では、三年次よりジョブティーチャー（ボランティア）から、一年間を通して週一度の個別指導を受ける。また、就労に備えて、ＮＰＯ法人ライナスの会が運営する店での職業実習を、クラブ活動の一環で、一年次より随時三年間行う。

また、農業では、三年次において進路選択の観点から、進路に沿った指導（例えば、農産業を志望する生徒には農家実習の導入など）を実施する。

⑧教科指導

教科指導は、文部科学省の学習指導要領を基本とし、設置される学校の目的、特性に応じた内容を実施する。また、個々のレベル・特性を考慮したクラス編成を行う。

（３）個々の児童生徒に対する具体的な配慮事項

本校の対象とする児童生徒は、知的な遅れはないが学習が部分的に苦手である、集中が持続しない、多動である、人とのコミュニケーションが苦手等の特性がある。

このような特性・状態像は、個々の児童生徒で異なり、それぞれ学習面だけでなく、心理面・生活面・行動面・社会性などに複合的な問題がある。その為、個に応じた専門的な教育支援と全般的な教育支援が必要である。

個に応じた専門的な教育支援と全般的な教育支援を行うため、個別指導計画（ＩＥＰ）を作成する。個別指導計画作成にあたって、保護者からの生育歴等の聞き取り、各種心理検査、学力のエラーチェック、行動観察等を行う。その情報をもとに、教育・心理・医療・福祉の専門家、スタッフ、保護者が検討会議を行い、ＩＥＰを作成する。

ＩＥＰは、学習面・心理・生活面・行動面・社会性等の状態・特性を検討し、その児童生徒にとって必要な教育支援全般を行うため、国語・算数数学等の教科プログラムだけでなく、社会生活への適応力や学習に取り組む基盤を作るため、カウンセリング・グループワーク・ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）等のプログラムが必要である。

この具体的な内容とねらいは以下の通りである。これらのプログラムは教科の要素も多く含んでおり、相互に関連づけながら指導を行っていく。

ＩＥＰに基づくプログラムは学齢に関係なく特性別・習熟度別に行い、個別又は少人数グループで行う。

（4）教育課程の基準によらない部分

＜新たな教科等の新設＞

	内容	ねらい
カウンセリング	児童生徒からの依頼又は、スタッフが心の状態を観て、適時、カウンセラーが対応する。児童生徒同士の問題が起きたときに、その問題を活かし臨床感のあるグループカウンセリングを効果的に行う。個別に、箱庭療法などプレイセラピー、寸劇を演じながら行う心理療法・ロールプレイ・行動療法など適時、様々な療法を行う	自己・他者を正しく理解し、肯定的に受け入れる。 自己の特性（苦手・得意な能力）を正しく肯定的に理解する。

	内容	ねらい
グループワーク	小講義、ワーク（体験学習等）によるグループカウンセリングを行う。 具体的には、エンカウンターグループのような集団活動、コラージュなどのプレイセラピーを行う。	自己・他者を正しく理解し、肯定的に受け入れる。 メタ認知（他者から見た客観的な自己を理解する力）の向上。 考える力を伸ばす。 教員と児童生徒のラポールを深める。

	内容	ねらい
SST	ロールプレイ、ロールテイクを取り入れ、人と適切に関わるための基本的な技術を身に付けるトレーニングを行う。 各種認知トレーニングを行う。 例えば、寸劇を見て状況や他者の気持ちを理解し、自分がその立場にあったらどうするかを考える。その際、他の子どもの意見を聞き一つの考え方として受け入れる練習をしたり、自分の考えを正しく表現したりすることを学ぶ。	小集団の中で他者とかかわり、自己評価、他者評価を正しく受け止め行動を最も良い方向に導く。 コミュニケーションスキル、ソーシャルスキルの育成。ルール理解。セルフコントロールの向上。

リソース	子どもの特性に合わせた課題をＩＥＰに基づいて行う。今、その児童生徒にとって最も必要な指導・援助を行う。特性に応じた認知訓練を行う。 例えば、非常に音感の良い児童生徒に対して個別での音楽の英才教育を行う。根気よく課題に取り組めず、なかなか達成感の得られない児童生徒には、お手伝いの課題を決め、できたらシールを貼り、続けられたことを評価するなど。	苦手分野を補い、得意分野をより伸ばす。 担任の指示のもと、非常勤・アルバイト・ボランティアが指導・援助を行う。

特別な教育課程の編成を行うことにより、ＩＥＰに基づき、個々の特性・状態や発達段階や学習の達成度等に合わせた専門的な教育支援をできるようにする。

学習指導要領に示される標準指導時数は参考にするものの、心のケアを行ったり、社会性や社会的な技能を身につけたり、生活習慣の確立させたりするために、また、個別でのきめ細かい教科指導が必要とされるため、各教科の指導時数はカウンセリング、ワーク、ＳＳＴ、実用トレーニングの教育支援に置き換える。

１単位時間は４０分で設定し、授業の実施にあたっては、児童生徒の特性から２０分を１モジュールとし、場合によっては間に休憩をはさみながら、１単位時間分の指導を行うものとする。

◎　小学部１年～3 年までは「特別活動」の内容である行事や学級活動をＳＳＴによる社会性を育てる指導や実用トレーニングによる身辺自立・生活習慣を確立する指導に置き換える。

◎　同じ理由から「道徳」についても、ＳＳＴによる指導や実用トレーニングによる指導の内容と重なる部分が多いので置き換える。

◎　国語科時間数については、ワーク、リソース、ＳＳＴ、実用トレーニングの指導をそれに置き換える。特に、年に１回行うミュージカル公演は、音楽や体育、その他の教科と合わせた国語の指導の大きな柱となっている。台詞、動作の練習を繰り返し行うことで場に応じた適切な言葉遣いや声の大きさ、言葉の明瞭さ、間のとり方等を学ぶ。

◎　同じく、小学部の音楽も授業時数は週１回とする。そこでのねらいと内容は次のようなものである。音楽とは本来「音を楽しむ」ものであるが、その習得（特にピアニカ・リコーダー等の楽器における）にはしばしば根気強い反復練習、集中力、手指の巧緻性等が要求される。

しかし、対象児童生徒はそのいずれにも強い抵抗感を持つことが多く、それが苦手意識となり「音が苦」になる場合が多い。

従って、小学部の音楽では、まず、音楽がとても楽しいと感じることを目指している。

具体的には指導要領以外の曲も積極的に取り入れたり、音楽を伴うゲーム・オリジナル楽器作りをしたりなど、音楽を取り巻く世界を広げ、児童生徒ができるだけ興味を持てるようになり、そして音を楽しむことができるプログラムを立てている。また年１回、台本・曲ともすべてオリジナルのミュージカルを公演することで、子ども達は積極性・協調性が増大し、有能感や自信を持てるようになる。

中学部においても週１回の授業での、最大の目標は「音を楽しみ、日常の情緒の安定を図る」ことである。変声期に入っているので無理に歌うことはさせない。また、特に編入生は音楽嫌いで、「音楽」というだけで拒絶反応を示すことも多いので、少しずつ音楽に近づくことができるよう、音楽ゲーム（リズムを伴うもの)、発声の基礎訓練などを組み合わせたプログラムを立てている。年一回のミュージカル公演では、中学部の児童生徒が中心になるが、やはり、公演を経験することで積極性・協調性・有能感・自信の増大が著しく認められる。

◎　小学部段階で「英語」を取り入れる

LD 等の特性のある児童生徒は、特性や状態から自己表現、自己表出が難しい児童生徒も多いが、日本語以外の言語学習、「英語」を早期に学ぶことで、自己表現ができる手段、場面を多様化し、児童生徒の特性の中の優れた能力を伸ばし、状態の改善にも大きな効果を期待できる。

人間の赤ちゃんが言葉を覚えるように、「聞く　→　話す　→　読む　→　書く」の自然な流れで英語を身に付けていくのが最良と思われる。人間の脳は、１０才以前に言語学習を開始することが良いと言われている。１０才を過ぎると、「話す」という行為が素直にできにくいこととも関連があるらしい。その大切な１０才以前に、ゲーム・歌・クラフト作り・読み聞かせを通じ、大量の英語を耳から入れておき、抵抗なく口から出すチャンスを作ることは、大いに意味がある。

また、対象児童生徒には、それぞれ特性がある。耳から情報の入りやすい児童生徒、目から入りやすい児童生徒など、特性を考えた指導ができる。前者には、毎日の様々な場面に英語で話しかけ、それに対して答えることができることにより有能感を持たせ、記号が入りやすい後者には、得意なパソコン操作により有能感を持たせるなどＴＰＲを含めた一斉授業、座って聞くだけの授業ではない学習ができる。

◎　指導要領に基づけば、小学部では「家庭科」のみで「技術」は含まれないが、ＬＤ、ＡＤＨＤ等の特性に対する指導援助を行うために

・目と手の協応動作のトレーニング
・計画的で、共同作業を伴う課題のトレーニング
・これらのことを安全に進める上で必要な自己認知のトレーニング

などの必要性から「技術」も取り入れる。

◎　小・中学部での「図画・工作」及び「美術」を「造形」と称する。理由としては、新学習指導要領にも強調されているように、児童生徒の特性や個性を活かした、多様性があり創造的な活動を重視する教育として、「自らがつくりだす喜びを味わう」を基本とすることから、教科名を「造形」としたい。

（５）教育課程の内容等

①教育課程について

☆小学部(低学年) 履修単位数・時程表　次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	インクルージョン												
	各教科学習							領域					
	算数	国語	英語	生活	造形	保・体	音楽	総合	リソ	SST	実用	週・計	年・計
小1	3	3	2	3	2	1	1	2	2	1	1	21	735
小2	3	3	2	3	2	1	1	2	2	1	1	21	735
小3	3	3	2	3	2	1	1	2	2	1	1	21	735

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
		朝　の　会				
10:15	1	国語	算数	算数	国語	SST
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	総合	造形	英語	生活	国語
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	総合	造形	実用トレーニング	音楽	生活
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	算数	リソース	SST	リソース	英語
14:05		休 憩 5 分	帰りの会			
14:10	5	体育				
14:50		帰りの会				

☆小学部(高学年) 履修単位数・時程表　次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	インクルージョン																
	各教科学習									領域							
	算数	国語	英語	理科	社会	造形	保・体	技・家	音楽	総合	特活	Gワ	リソ	SST	実用T	週・計	年・計
小4	3	3	2	3	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	28	980
小5	3	3	2	3	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	28	980
小6	3	3	2	3	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	28	980

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝　の　会				
	1	技術・家庭	社会	理科	英語	算数
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	総合	算数／国語	理科	理科	算数
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	総合	リソース	国語/算数	音楽	実用トレーニング
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	国語	英語	グループワーク	造形	SST
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	英語	保健・体育	グループワーク	造形	特活（HR）
14:50		帰りの会	休 憩 5 分	帰りの会		休 憩 5 分
14:55	6		保健・体育			特活（クラブ活動）
15:35			帰りの会			休 憩 5 分
15:40	7					特活（クラブ活動）
16:20						帰りの会

☆中学部 履修単位数・時程表 次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	インクルージョン														選択		
	各教科学習									領域							
	数学	国語	英語	理科	社会	造形	保・体	技・家	音楽	総合	特活	グ・ワ	リソ	SST	英/数	週・計	年・計
中1	3	2	3	3	1	2	2	1	1	2	3	2	2	1	4	32	1120
中2	3	2	3	3	1	2	2	1	1	2	3	2	2	1	4	32	1120
中3	3	2	3	3	1	2	2	1	1	2	3	2	2	1	4	32	1120

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

*選択科目単位数

英語コース	英語	4	数学	0
数学コース	英語	0	数学	4
英・数コース	英語	2	数学	2

*習熟度別・特性別に依る班分け

A班/B班/C班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
		朝 の 会				
10:15	1	理科/英語/社会	選択②	国語/英語/数学	技家/社会/国語	数学/国語/英語
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	選択①	音楽/理科/英語	リソース	社会/理科/SST	理科/SST/数学
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	英語/数学/技家	理科/音楽/数学	数学/英語/国語	選択③	英語/技家/理科
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	数学/国語/英語	SST/理科/音楽	グループワーク	特活（クラブ活動）	選択④
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	保体/造形/総合	総合/保体/造形	グループワーク	特活（クラブ活動）	国語/数学/理科
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	保体/造形/総合	総合/保体/造形	特活（HR）	造形/総合/保体	リソース
15:35		帰りの会			休 憩 5 分	
15:40	7				造形/総合/保体	英語/数学/理科
16:20					帰りの会	

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー農業） 次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	農業	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊農業科目

農業実習		農業簿記		フラワーアレンジメント	
農業経営		花卉園芸		生物学	

＊習熟度別・特性別に依る班分け

A班/B班/C班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
	1	SST/国語/数学	リソース	選択	社会/国語/数学	選択
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	SST/社会/国語	数学/国語/SST	選択	グループワーク	選択
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	国語/数学/社会	国語/数学/SST	選択	グループワーク	選択
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	国語/英語/数学	リソース	選択	理科/SST/国語	選択
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	英語/理科/保体	数学/保体/英語	選択	理科/SST/国語	選択
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	英語/理科/保体	数学/保体/英語	選択	保体/数学/理科	選択
15:35		帰りの会		休 憩 5 分		
15:40	7			選択	保体/英語/理科	特活（HR）
16:20				帰りの会		

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー情報処理） 次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	情報	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊習熟度別・特性別に依る班分け

A班/B班/C班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
		朝 の 会				
10:15	1	SST/国語/数学	リソース	情報処理	社会/国語/数学	情報処理
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	SST/社会/国語	数学/国語/SST	情報処理	グループワーク	情報処理
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	国語/数学/社会	国語/数学/SST	情報処理	グループワーク	情報処理
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	国語/英語/数学	リソース	情報処理	理科/SST/国語	情報処理
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	英語/理科/保体	数学/保体/英語	情報処理	理科/SST/国語	情報処理
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	英語/理科/保体	数学/保体/英語	情報処理	保体/数学/理科	情報処理
15:35		帰りの会		休 憩 5 分		
15:40	7			情報処理	保体/英語/理科	特活（HR）
16:20				帰りの会		

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー芸術） 次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	選択	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

※芸術科目

音楽系	音楽	.ピアノ	バレエ
美術系	絵画・彫刻	陶芸	

*習熟度別・特性別に依る班分け

A班/B班/C班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
	1	SST/国語/数学	リソース	選択	社会/国語/数学	選択
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	SST/社会/国語	数学/国語/SST	選択	グループワーク	選択
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	国語/数学/社会	国語/数学/SST	選択	グループワーク	選択
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	国語/英語/数学	リソース	選択	理科/SST/国語	選択
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	英語/理科/保体	数学/保体/英語	選択	理科/SST/国語	選択
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	英語/理科/保体	数学/保体/英語	選択	保体/数学/理科	選択
15:35		帰りの会		休 憩 5 分		
15:40	7			選択	保体/英語/理科	特活（HR）
16:20				帰りの会		

☆高等部 履修単位数・時程表（選択一大学進学） 次年度以降

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	選択	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

*選択科目

文系	国語	4	社会	4	英語	5
理系	数学	4	理科	4		

*選択科目コース分け

文系／理系

*習熟度別・特性別に依る班分け

A班/B班/C班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
	1	SST/国語/数学	リソース	社会／理科	社会/国語/数学	社会／理科
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	SST/社会/国語	数学/国語/SST	国語／数学	グループワーク	英語（選）
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	国語/数学/社会	国語/数学/SST	社会／理科	グループワーク	国語／数学
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	国語/英語/数学	リソース	英語（選）	理科/SST/国語	社会／理科
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	英語/理科/保体	数学/保体/英語	国語／数学	理科/SST/国語	英語（選）
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	英語/理科/保体	数学/保体/英語	英語（選）	保体/数学/理科	国語／数学
15:35		帰りの会		休 憩 5 分		
15:40	7			英語（選）	保体/英語/理科	特活（HR）
16:20				帰りの会		

時程表・教職員配置モデル 次年度以降

☆ホームルーム

小学部：	１年	中学部：	１年	高等部：	１年
	２年		２年		２年
	３年		３年		３年
	４年				
	５年				
	６年				

☆教科指導

小学部：　低学年は、到達度別・分野別に3班（基礎・特性・実習）で行う。
　　高学年は、到達度別・分野別に3班（基礎・特性・実習）で行う。

中学部：　必修科目は、到達度別・分野別に3班（基礎・特性・実習）、あるいは１～６班で行う。
　　選択科目は、3コース（数学・英語・数英）に分かれ、２クラス（数学・英語）で行う。

高等部：　必修科目は、到達度別・分野別に3班（基礎・特性・実習）、あるいは１～６班で行う。
　　選択科目は、農業・情報・芸術・進学の４クラスで行う。

☆教員および専門職員数

小学部：	常勤	６名	
中学部：	常勤	３名	**国語・理科・社会 各1名**
	非常勤	４名	**数学・英語・技家・保体 各1名**
高等部：	常勤	３名	**数学・英語・造形 各1名**
	非常勤	６名	**国語・理科・社会・保体・情報・音楽 各1名**
	計	２２名	

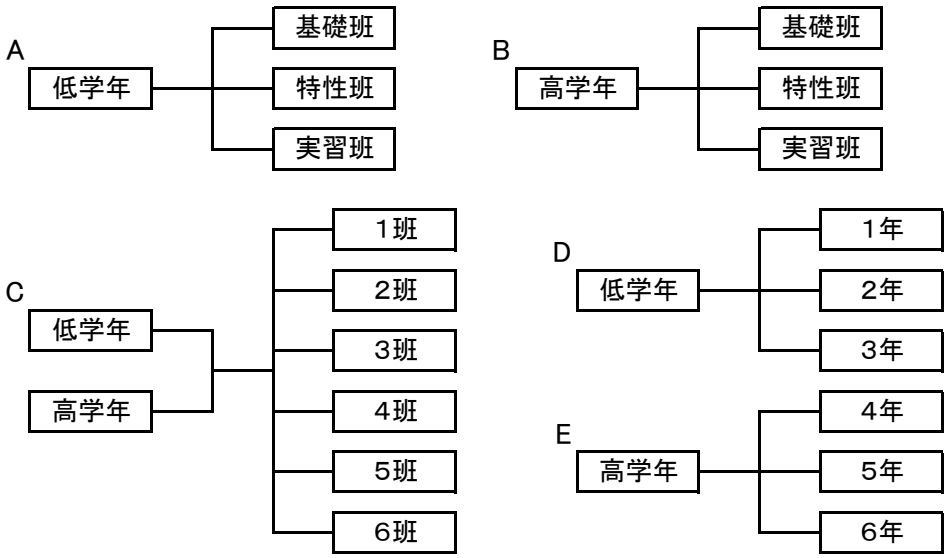
小学部・中学部教頭	１名
高等部教頭（農業）	１名
養護教諭	１名
アルバイト	３名
ボランティア	１２名
医師	１名
作業療法士	１名
カウンセラー	１名
計	２１名

☆事務職員数

事務	２名
計	２名

☆教科指導・HR クラス分けパターン

＊小学部

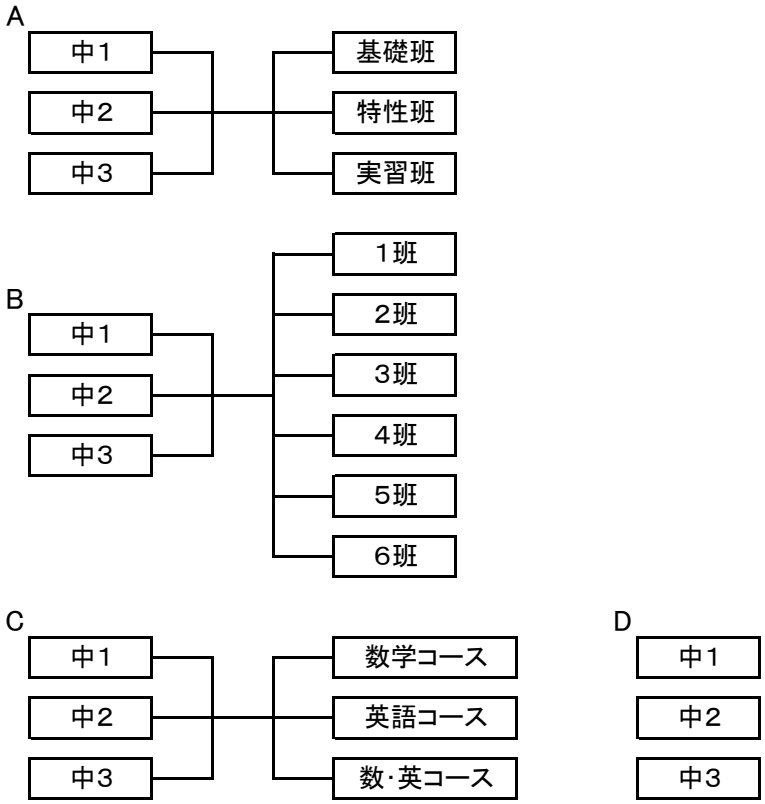


※一般科目及び特殊科目（Gワーク・SST）は、小学免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → AB

※特殊科目（リソース）は、低学年、高学年のそれぞれで授業を行い、それぞれのクラスで小学免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ5名で行う

※HRは、各クラス担任の小学免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → DE

＊中学部



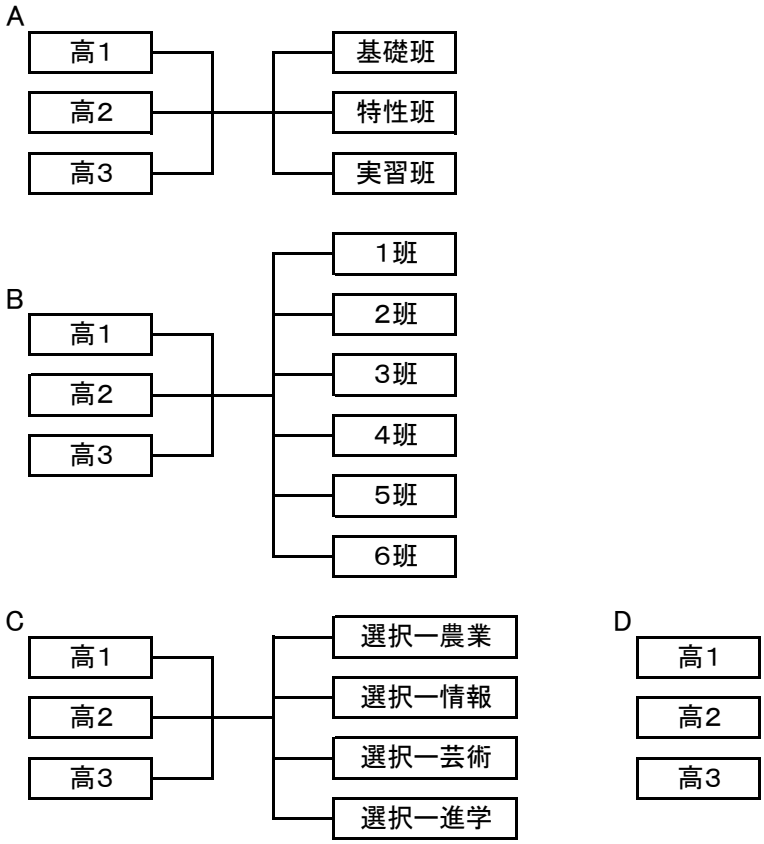
※一般科目及び特殊科目（Gワーク、SST）は、中・高免許所有者（常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → A

※特殊科目（リソース）は、中・高免許所有者(常勤）1名と、サブスタッフ5名で行う → B

※選択科目の数学・英語は、中・高免許所有者(常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → C

※HRは、各クラス担任の中・高免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う→ D

＊高等部



※一般科目及び特殊科目（Gワーク・SST）は、中・高免許所有者（常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → A
※特殊科目（リソース）は、中・高免許所有者(常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ5名で行う → B
※選択科目の情報・農業、中・高免許所有者(常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → C
※選択科目の国語・社会・数学・理科・英語は、中・高免許所有者(常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → C
※選択科目の造形・音楽は、中・高免許所有者(非常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → C
※HRは、各クラス担任の中・高免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → D

☆小学部(低学年) 履修単位数・時程表(初年度)

＊履修単位数（年間35週とする。）

	インクルージョン												
	各教科学習							領域					
	算数	国語	英語	生活	造形	保・体	音楽	総合	リソ	SST	実用	週・計	年・計
小1	3	3	2	2	2	1	1	2	2	2	1	21	735
小2	3	3	2	2	2	1	1	2	2	2	1	21	735
小3	3	3	2	2	2	1	1	2	2	2	1	21	735

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
		朝 の 会				
10:15	1	国語	算数	国語	SST	算数
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	総合	造形	リソース	リソース	国語
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	総合	造形	SST	音楽	生活(理)
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	算数	英語	実用トレーニング	生活(社)	英語
14:05		休 憩 5 分	帰りの会			
14:10	5	体育				
14:50		帰りの会				

☆小学部(高学年) 履修単位数・時程表(初年度)

＊履修単位数（年間35週とする。）

	インクルージョン																
	各教科学習									領域							
	算数	国語	英語	理科	社会	造形	保・体	技・家	音楽	総合	特活	Gワ	リソ	SST	実用T	週・計	年・計
小4	3	3	2	3	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	28	980
小5	3	3	2	3	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	28	980
小6	3	3	2	3	1	2	2	1	1	2	3	2	1	1	1	28	980

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
	1	技術・家庭	国語	理科	英語	算数
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	国語	算数	理科	理科	算数
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	社会	音楽	国語	リソース	実用トレーニング
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	特活 （クラブ活動）	造形	グループ ワーク	SST	英語
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	特活 （クラブ活動）	造形	グループ ワーク	保健・体育	総合
14:50		休 憩 5 分	帰りの会		休 憩 5 分	
14:55	6	特活（HR）			保健・体育	総合
15:35		帰りの会			帰りの会	

☆中学部 履修単位数・時程表(初年度)

＊履修単位数（年間35週とする。）

	インクルージョン														選択		
	各教科学習									領域							
	数学	国語	英語	理科	社会	造形	保・体	技・家	音楽	総合	特活	グ・ワ	リソ	SST	英/数	週・計	年・計
中1	3	2	3	3	1	2	2	1	1	2	3	2	2	1	4	32	1120
中2	3	2	3	3	1	2	2	1	1	2	3	2	2	1	4	32	1120
中3	3	2	3	3	1	2	2	1	1	2	3	2	2	1	4	32	1120

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

*選択科目単位数

英語コース	英語	4	数学	0
数学コース	英語	0	数学	4
英・数コース	英語	2	数学	2

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
		朝 の 会				
10:15	1	理科	数学	総合	選択	リソース
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	選択	造形	総合	英語	理科
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	選択	造形	選択	英語	理科
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	英語	国語	リソース	社会	SST
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	数学	特活 （クラブ活動）	保健・体育	グループ ワーク	国語
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	数学	特活 （クラブ活動）	保健・体育	グループ ワーク	技術・家庭
15:35		帰りの会			休 憩 5 分	
15:40	7				特活（HR）	音楽
16:20					**帰りの会**	

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー農業）（初年度）

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	農業	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

*農業科目

農業実習		農業簿記		フラワーアレンジメント	
農業経営		花卉園芸		生物学	

*習熟度別・特性別に依る班分け

A班／B班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
10:55	1	SST／国語	英語／理科	選択	リソース／社会	選択
11:00		休 憩 5 分				
11:40	2	理科／SST	英語／理科	選択	グループワーク	選択
11:45		休 憩 5 分				
12:25	3	理科／SST	国語／数学	選択	グループワーク	選択
13:25		昼休み（昼食・清掃）				
14:05	4	数学／リソース	リソース	選択	国語／数学	選択
14:10		休 憩 5 分				
14:50	5	保体／英語	数学／国語	選択	国語／数学	選択
14:55		休 憩 5 分				
15:35	6	保体／英語	数学／国語	選択	社会／保体	選択
15:40		帰りの会		休 憩 5 分		
16:20	7			選択	SST／保体	特活（HR）
				帰りの会		

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー情報処理）（初年度）

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	情報	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊習熟度別・特性別に依る班分け

A班／B班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
		朝 の 会				
10:15	1	SST/国語	英語／理科	選択	リソース／社会	選択
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	理科／SST	英語／理科	選択	グループワーク	選択
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	理科／SST	国語／数学	選択	グループワーク	選択
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	数学／リソース	リソース	選択	国語／数学	選択
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	保体／英語	数学／国語	選択	国語／数学	選択
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	保体／英語	数学／国語	選択	社会／保体	選択
15:35		帰りの会		休 憩 5 分		
15:40	7			選択	SST／保体	特活（HR）
16:20				帰りの会		

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー芸術）（初年度）

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	選択	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

※芸術科目

音楽系	.音楽	ピアノ	バレエ
美術系	絵画・彫刻	陶芸	

*習熟度別・特性別に依る班分け

A班／B班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
	1	SST／国語	英語／理科	選択	リソース／社会	選択
10:55		休 憩 5 分				
11:00	2	理科／SST	英語／理科	選択	グループワーク	選択
11:40		休 憩 5 分				
11:45	3	理科／SST	国語／数学	選択	グループワーク	選択
12:25		昼休み（昼食・清掃）				
13:25	4	数学／リソース	リソース	選択	国語／数学	選択
14:05		休 憩 5 分				
14:10	5	保体／英語	数学／国語	選択	国語／数学	選択
14:50		休 憩 5 分				
14:55	6	保体／英語	数学／国語	選択	社会／保体	選択
15:35		帰りの会		休 憩 5 分		
15:40	7			選択	SST／保体	特活（HR）
16:20				帰りの会		

☆高等部 履修単位数・時程表（選択ー大学進学）（初年度）

＊履修単位数（年間35週とする。）

	国語	社会	数学	理科	英語	保・体	特活	グ・ワ	リソ	SST	選択	週・計	年・計
高1	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155
高3	3	1	3	2	2	2	1	2	2	2	13	33	1155

（注）生徒の特性から1単位時間を40分とする。

＊選択科目

文系	国語	4	社会	4	英語	5
理系	数学	4	理科	4		

＊選択科目コース分け

文系／理系

＊習熟度別・特性別に依る班分け

A班／B班

＊時程表

		月	火	水	木	金
10:00						
10:15		朝 の 会				
10:55	1	SST／国語	英語／理科	英語（選）	リソース／社会	英語（選）
11:00		休 憩 5 分				
11:40	2	理科／SST	英語／理科	国語／数学	グループワーク	英語（選）
11:45		休 憩 5 分				
12:25	3	理科／SST	国語／数学	社会／理科	グループワーク	国語／数学
13:25		昼休み（昼食・清掃）				
14:05	4	数学／リソース	リソース	英語（選）	国語／数学	国語／数学
14:10		休 憩 5 分				
14:50	5	保体／英語	数学／国語	国語／数学	国語／数学	社会／理科
14:55		休 憩 5 分				
15:35	6	保体／英語	数学／国語	社会／理科	社会／保体	社会／理科
15:40		帰りの会		休 憩 5 分		
16:20	7			英語（選）	SST／保体	特活（HR）
				帰りの会		

時程表・教職員配置モデル(初年度)

☆ホームルーム

小学部:	低学年	中学部:	複式学級	高等部:	1年
	高学年				2年
					3年

☆教科指導

小学部: 低学年は、複式学級の1クラスで行う。
高学年は、複式学級の1クラスで行う。

中学部: 必修科目は、複式学級の1クラス、あるいは特性別に1班～6班で行う。
選択科目は、3コース(数学・英語・数英)に分かれ、2クラス(数学・英語)で行う。

高等部: 必修科目は、到達度別・分野別に3班(基礎・特性・実習)、あるいは特性別に1～6班で行う。
選択科目は、農業・情報・芸術・進学の4クラスで行う。

☆教員および専門職員数

小学部:	常勤	2名	
中学部:	常勤	1名	**理科 1名**
高等部:	常勤	3名	**数学・英語・国語 各1名**
中・高:	非常勤	6名	**社会・技家・造形・保体・音楽・情報 各1名**
	計	12名	

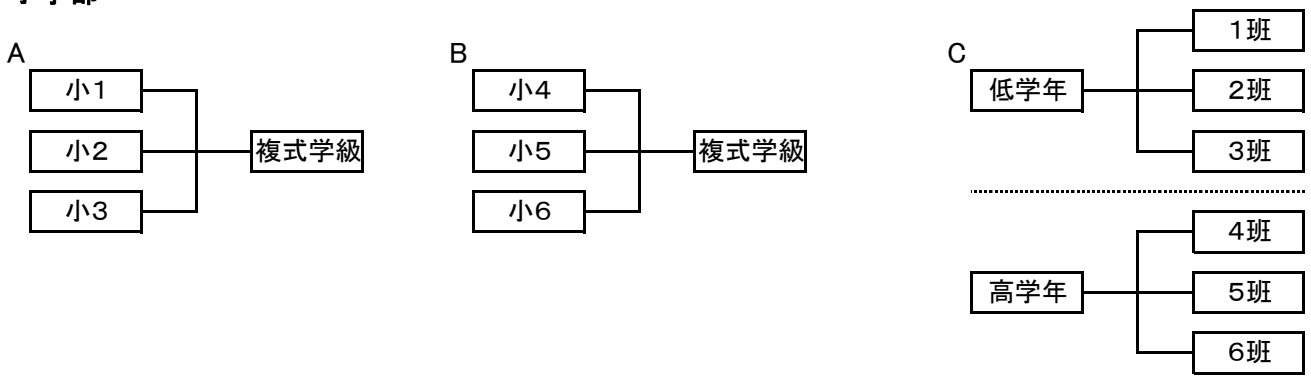
小学部・中学部教頭	1名
高等部教頭(農業)	1名
養護教諭	1名
アルバイト	3名
ボランティア	12名
医師	1名
作業療法士	1名
カウンセラー	1名
計	21名

☆事務職員数

事務	2名
計	2名

☆教科指導・HR クラス分けパターン

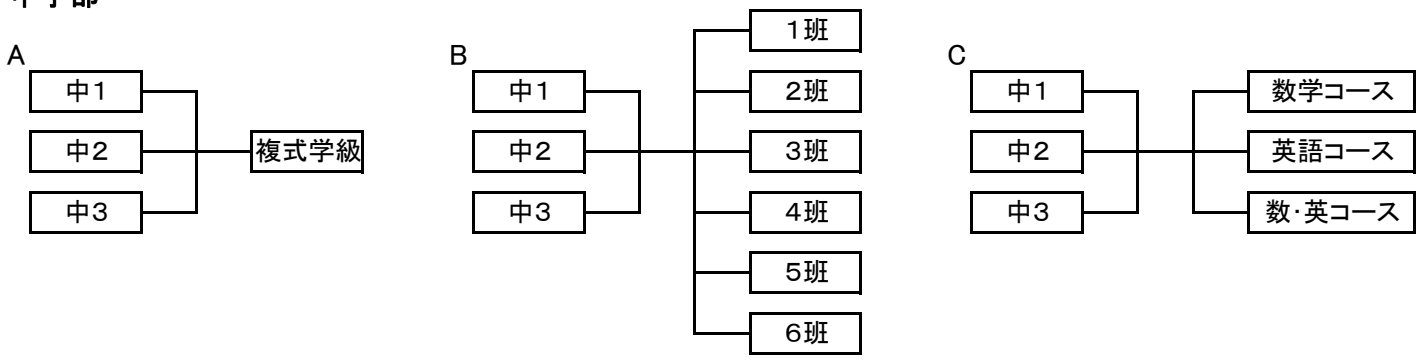
＊小学部



※一般科目及び特殊科目（Gワーク・SST）は、小学免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ2名で行う → AB

※特殊科目（リソース）は、低学年、高学年のクラスそれぞれで授業を行い、それぞれのクラスで小学免許所有者（常勤）1名の立案指導のもとサブスタッフ2～5名と共に行う → C

＊中学部

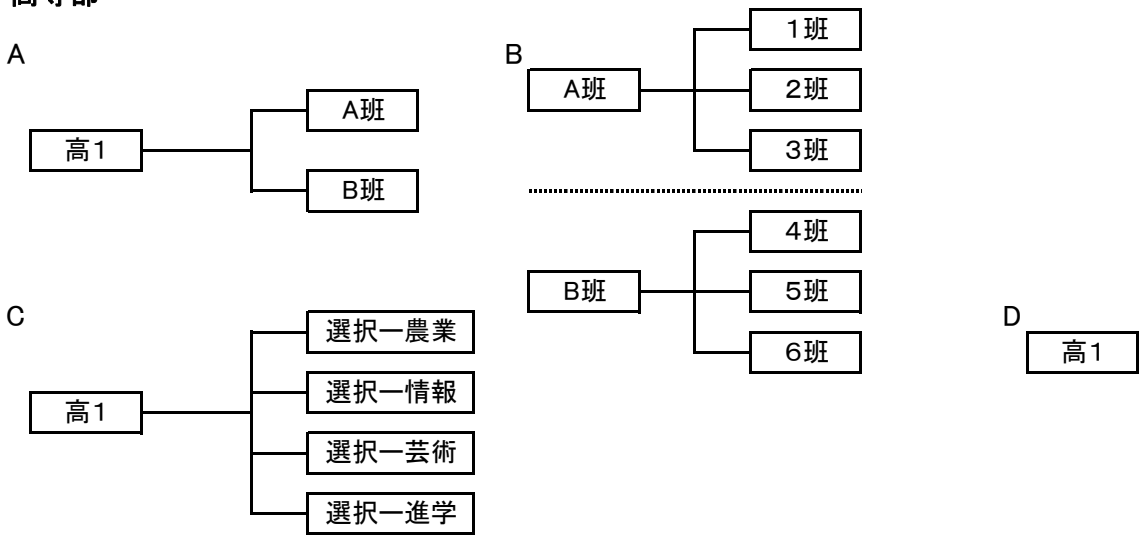


※一般科目及び特殊科目（Gワーク・SST）は、中・高免許所有者（常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ2名で行う → A

※特殊科目（リソース）は、中・高免許所有者（常勤・非常勤）1名の立案指導のもとサブスタッフ5名と共に行う → B

※選択科目の数学・英語は、中・高免許所有者(常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → C

＊高等部



※一般科目は特性別に分かれ、中・高免許所有者（常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ2名で行う → A

※特殊科目（Gワーク・SST）は、特性別に分かれ、中・高免許所有者(常勤）1名と、サブスタッフ2名で行う → A

※特殊科目（リソース）は、A班、B班に分かれ、中・高免許所有者(常勤）2名の立案指導のもとサブスタッフ4名と共に行う → B

※選択科目は選択科目別に分かれ、中・高免許所有者(常勤・非常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → C

※HRは、各クラス担任の中・高免許所有者（常勤）1名と、サブスタッフ1名で行う → D

学級編制表

＊定員(平成19年度以降)

区分	学級数	収容定員	備考
小学部	６学級	４８人	
中学部	３学級	３０人	
高等部	３学級	３９人	
計	１２学級	１１７人	

＊平成１７年度（初年度）

区分	学級数	収容定員	備考
小学部低学年	１学級	１５人	
小学部高学年	１学級	１５人	
中学部	１学級	１５人	
高等部	１学級	１３人	
計	４学級	５８人	

＊平成１８年度（次年度）

区分	学級数	収容定員	備考
小学部低学年	３学級	２４人	
小学部高学年	３学級	２４人	
中学部	３学級	３０人	
高等部	２学級	２６人	
計	１１学級	１０４人	

小学部　学級編制表

定員（平成19年度以降）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	８人	
２年生	１学級	８人	
３年生	１学級	８人	
４年生	１学級	８人	
５年生	１学級	８人	
６年生	１学級	８人	
計	６学級	４８人	

平成１７年度（初年度）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級　複式学級	５人	
２年生		５人	
３年生		５人	
４年生	１学級　複式学級	５人	
５年生		５人	
６年生		５人	
計	２学級	３０人	

平成１８年度（次年度）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	８人	
２年生	１学級	８人	
３年生	１学級	８人	
４年生	１学級	８人	
５年生	１学級	８人	
６年生	１学級	８人	
計	６学級	４８人	

中学部　学級編制表

定員(平成19年度以降)

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	１０人	
２年生	１学級	１０人	
３年生	１学級	１０人	
計	３学級	３０人	

平成１７年度（初年度）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級　複式学級	５人	
２年生		５人	
３年生		５人	
計	１学級	１５人	

平成１８年度（次年度）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	１０人	
２年生	１学級	１０人	
３年生	１学級	１０人	
計	３学級	３０人	

高等部　　学級編制表

定員(平成19年度以降)

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	１３人	
２年生	１学級	１３人	
３年生	１学級	１３人	
計	３学級	３９人	

平成１７年度（初年度）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	１３人	
２年生		０人	
３年生		０人	
計	１学級	１３人	

平成１８年度（次年度）

区分	学級数	収容定員	備考
１年生	１学級	１３人	
２年生	１学級	１３人	
３年生		０人	
計	２学級	２６人	

②教科等指導に関する本校の特色

指導内容の特色について

「生きる」力を基本理念とした教育

対象児童生徒の特色に沿った教育

豊かな自然を活かした教育

地域近隣と関わりをもつ活動

国語

生活に密着した物語や経験から日本語を正しく理解し、豊かな表現力を育てる。

算数

具体物を積極的に用い、数概念を理解し、自らを考えることができるようになる。

理科

豊かな自然環境を生かし、自然に親しみ科学的視点を身につける。

英語

異なる言語を学び、自己表現、コミュニケーションスキルの学習機会を多様化する。

社会

時事問題について考えることにより、身近な生活、社会について興味・関心を持つ。

体育

運動を通し、自分の身体について知ることやルールを理解して集団行動をとれるようになる。

音楽

ゲームや手作り楽器を通して音に親しみながら音楽に対する世界観を広げていく。

造形

自らの手でものを作り出す喜びを通して、生きる力を育んでいく。

ＳＳＴ

ロールプレイ、ロールテイクなどを通してコミュニケーションスキルを向上させる。

ワーク

集団での活動を通して自己・他者を正しく理解し、メタ認知を向上させる。

リソース

個別指導計画に基づき、各自の苦手分野を補い、得意分野を伸ばす為の個別指導を行なう。

国語　　物語の読み聞かせの課題を通しての小学部中･高学年の指導例

指導内容	ねらい	子どもの特性に応じた援助
短い物語を 落ち着いて聞く。	集中の悪い児童生徒のねらい ・・・離席せず１０分間集中して物語を聞ける。	集中の持続が難しい児童生徒には、１０分間物語を聞けたことを評価し、国語を終了して別室で過ごすことも可とする。
	短期記憶の悪い児童生徒のねらい ・・・物語の内容を確認する。＜登場人物＞	短期記憶の苦手な児童生徒のために登場人物とそれ以外のものを加えた絵を用意し、その中から選択させる。
	＜物語の流れ＞	状況理解の苦手な児童生徒のために場面の絵カードを並べる作業をしながら、物語の流れを確認する。
	書字に困難のある児童生徒のねらい ・・・感想を文に書き表す。	文字を書くことが苦手な児童生徒には感想を聞き取って手本を作り、一部本人が書けるようになぞり書きシートを用意したり、視写手本を用意したりして援助する。
	文を書くことが苦手な児童生徒のねらい ・・・感想を文に書き表す。	文を書くことが苦手な児童生徒には、要素となる単語を書き出させ、その単語を用いて、短文にまとめる援助をする。
	衝動性を抑えるのが難しい児童生徒のねらい ・・・感想をみんなの前で発表する。	順番を守れなかったり、余計なおしゃべりが多かったりする児童生徒には、最初に何番目に発表するか見通しを持たせるかし、発表のルールを確認する。
	視知覚に問題がある児童生徒のねらい ・・・物語の一部を視写する。	視知覚に問題があって視写の苦手な子には、混乱しないように簡単な単語を手本の距離も近いところから練習し、少しずつ長い文章を書き写せるように援助する。
	手指の巧緻性に問題のある児童生徒のねらい ・・・書字動作をコントロールしながら物語の一部を視写する。	手先に緊張が強く、不器用な子には腕・肩・手首の緊張をとるリラクゼーションをはかり、正しい力の入れ方を指導し、大きめのマスのプリントを用意し、ゆっくり書かせる。
	集中の悪い児童生徒のねらい ・・・時間や分量の見通しを持って物語の一部を視写する。	気が散りやすい児童生徒は、机を壁に向けたり、余分な刺激を取り除いたりなどの配慮をする。最初に何分間とか、これだけの長さの文を視写するとかいう目標を明らかにし、本人と確認する。

算数・数学　「数の時間」についての指導例

＊　算数障害の子どもに関してはリソース時間を利用しての１対１対応を行う

	特徴	内容	ねらい・目的
Ⅰ	９０分の長時間授業（週１回）（＊小学校３年生以下は４０分授業とする）	総合的な「考える」ことを養う授業。国語・社会・理科などの要素を含み、具体物を積極的に用いる。	・　集中力を持続し、多面的に物事を捉え「考える」ことができるようになる。 ・　具体物を使っての実験や観察により、より明確な理解を促す（視知覚）。 ・　質疑応答・文章読解などを通し、国語力を身につけると共に、コミュニケーションの基礎を学ぶ。
Ⅱ	２０分の短時間授業（週２回）	復習の時間として、より深い理解、知識の定着を促す。	・　短時間で課題に集中できるようになる。 ・　時間内に課題を再認識し、必要に応じた援助を求めることができる。
Ⅲ	少人数クラス（最大１０人）に対し複数のスタッフ（３～５人）	ＩＥＰに基づいた各児童生徒の指導が実行できるよう、児童生徒とスタッフの配置は慎重に検討される。	・　様々な特性の児童生徒の多様なニーズに対応し、注意・集中の続く充実した授業を進めるために必要な数のスタッフを配置する。
Ⅳ	学年の枠をこえた能力・特性別のクラス	学齢にとらわれず、個々の「数」理解の能力や特性に合わせたクラス編成をする。	・　数理解の程度に合わせたクラス編成により、学年の枠を越え、個々にとって「今必要な課題」に取り組むことができる。 ・　学年の違う児童生徒同士で教えあい、協力して答えを見つける楽しさを知る。
Ⅴ	考える時間	学習の前半は小講義の形式をとり、課題の基礎を伝えると共に、頭を使い「自分なりの答え・意見」が考え付くように支援する。	・　ある答えを出すために、どのような計算式がどうして必要なのかを考え付くことができるようになる。 ・　算数・数学という教科としてだけではなく、「数の概念」「数の世界」を理解できるようになる。
Ⅵ	レベルに合わせたプリント学習	到達レベルに合わせた個人学習の時間を設ける。	・　計算力・応用力を伸ばす。 ・　挙手により、自ら具体的かつ明瞭に援助を求めることができるようになる。

理科　「生物の時間」　についての指導例

目標：地域の特性を生かし、野外観察と実験を中心に、自然環境の多様性や変化を感じ取り、関心と理解を深め、児童生徒の生活を豊かにする。更に、興味・関心から専門性を育てる。

対象児童生徒の中には、ボディイメージが弱く、寒暖の差を正しく認識し衣服を調節するなど、適切な対応が苦手な者がいる。それらの児童生徒には自然環境の変化やその仕組みを、体を通して知識との両面から学ぶプログラムを実施する。

知的レベルは高いが、特定のものにしか興味を示さないタイプの児童生徒は、継続的によい点を伸ばす指導を受けることにより、より以上に優れた能力を発揮することもできるため、その興味に応じた、より専門性の高いプログラムを実施する。

プログラム、クラスは各種検査データ、行動観察やカウンセリングによる特性分析、本人の興味に関するアンケート結果を考慮して編成する。
例：

自然と親しむ学習中心	実験観察中心	科学専門プログラム
①「芋もちを作ろう」 ＜ねらい＞材料を知り調理を楽しむ。 ②秋を見つけよう ＜ねらい＞自然観察をしながら季節の変化に気づく。	①「芋もちを作ろう」 ＜ねらい＞材料の性質を試薬で調べる。 ②秋を見つけよう ＜ねらい＞動植物を含む自然環境の季節による変化を継続的に観察し記録をとる。	①「芋もちを作ろう」 ＜ねらい＞でんぷんを含むものを知り、その抽出の仕方、性質の調べ方を学ぶ。 ②秋を見つけよう ＜ねらい＞動植物が季節に適応できる仕組みについて学びレポートにまとめる。

平成１６年度テーマ

生物（講師：吉崎真里）	四季を通した植物・動物の変化	
化学（講師：吉崎芳郎）	川や湖の水質検査	
地学（講師：濱田隆士）	川の流れ、地域の土壌、山間地の気候の特徴	
物理（講師：大嶋治）	山の傾斜と道路・村落の関係	など

英語　小学低学年クラスの指導例

以下の表は、ある日の小学低学年クラスの英語の様子である。児童生徒の特性に応じた援助を加える。
（５～８名クラス、メインティーチャー１名、サブティーチャー３名で指導している。）　　※Ｃ＝子ども　　Ｔ＝スタッフ

	項目	授業の流れ	ねらい	視覚優位Ｃへの援助	聴覚優位Ｃへの援助	多動・集中困難Ｃへの援助
Ⅰ	座席決め	ＴがＣの座席を決める。	Ｃが授業に集中しやすいようにする。	他事が視野に入らぬようにする。 教室内の刺激物を減らす。		サブＴが付き、集中を継続させるよう声かけをする。
Ⅱ	始めの あいさつ	①Let ’ s start today ’ s lesson. …今日の予定を伝える。	先が見通せないと不安が増すＣのためにスケジュールを明らかにし、安心感を与える。	板書。	スケジュールを読み上げる。	１項目終了するごとに板書を消していく。
		②Hello! How are you?	自分の体調を意識させる	板書	声のトーンを変えながら気分の違いを伝える。	動きをつけて行う。
		③Today is October 7th, Monday. How is the weather today?	その日の月、日、曜日、天気を意識させる。		読み上げ。	
Ⅲ	テーマ： 動物	①　動物名の復習 …カードを見せながら発音。 真似するＣや聞くだけのＣも徐々に言えるようになる。	フラッシュカードを用いて短期記憶訓練。短期→長期へ移行しにくいＣのために必ず前の時間の復習を入れる。	カードを見せてイメージを持ちやすくする。	発音を聞かせ耳に残りやすいようにする。	カードで集中を促す。
		②　歌・絵本の読み聞かせ …5 Little Monkeys　などの手遊び歌を歌う。 歌うだけでもリズムとりだけでもよい。 …Ｔが外国の絵本を読むのを聞く。	集中、傾聴、興味。 テンポ良い英語、繰り返されるフレーズを聞き、楽しみながら内容を理解する。知っている単語が「聞こえてくる」面白さ、英語だけで理解できる喜びを知る。	手遊び、色彩豊かな絵本などで視覚的に援助して興味をもたせる。	音を拾うことが得意なので、一部でも歌える、発音できることにより有能感が芽生える。	手遊び歌で身体を動かすことにより集中を持続させる。 興味のあることへの発言にＴは英語で話を膨らませて学習意欲を高める
Ⅳ	今日の復習	Today ’ s 1 English …今日覚えた単語、表現を発表する。	記憶の呼びおこし。 「言える」こと、Ｔや他児から誉められることで有能感を育てる。	板書や使用した教材をヒントに使う。	自信のない発音の時でも聞き取れていることを誉めてあげる。	早い順番で発表させる。 他児の発表を聞けたときは積極的に誉める。
Ⅴ	終わりの あいさつ	That ’ s all for today. Good-bye. See you next time!	終了したことを宣言。			時間の区切りをつけさせる

体育　１日の指導例

内容	ねらい
１　縦割り	異年齢の小集団の中での体育的関わり（縦割り班）。
２　ルール理解	大きな動きのあるゲームなどを通して、簡単な約束事から理解していく。
３　微細運動 粗大運動	協応の悪い児童生徒のレベルに応じて大きな動きから小さな動きへの訓練。
４　マラソン	ＡＤＨＤ児、非言語性ＬＤ児、セルフコントロールディフィカルトを持つ児童生徒を主に、子ども自身で気持ち（テンション）をコントロールすることを覚えさせる。 ※距離は児童生徒一人ひとりの年齢、その日の体調に会わせて決める。

（６）本計画と憲法、教育基本法、学校教育法に示す学校教育目標との関係について

本計画で実施する小中高一貫校では、市内だけでなく、他の市町村からの小学生・中学生・高校生も対象としており、教育を受ける権利を保障した憲法２６条に合致するものである。

また、ＬＤ・ＡＤＨＤ、広汎性発達障害による不登校の児童生徒を対象とした教育を行うため、特別な教育課程の編成をし、個別指導計画（ＩＥＰ）に基づき、個々の特性･状態や発達段階や学習の達成度等に合わせた専門的な教育支援をできるようにする。

学習指導要領に示される標準指導時数は参考にするものの、心のケアを行ったり、社会性や社会的な技能を身に付けたり、生活習慣の確立させたりする、また、個別でのきめ細かい教科指導を行なう必要があり、各教科の指導時数は「カウンセリング」、「ワーク」、「ＳＳＴ」、「実用トレーニング」の教育支援に置き換える。

この中で、教科の削減や授業時数の削減による支障が懸念されるが、「リソース」、「カウンセリング」、「ワーク」、「ＳＳＴ」、「実用トレーニング」では、各教科学習の要素をそれぞれ取り入れた総合的な内容になっているため、充分に教科や授業時数の削減を補うことができると考える。そして、時数の増減は、手段としての方策であって、内容・目標は学習指導要領を充足するものである。

現在、ＬＤ・ＡＤＨＤ、広汎性発達障害による不登校の児童生徒への教育支援の環境が充分でない教育現状の中で、将来を見越して、個々の状態・特性に合わせたトータルな教育支援を行うことは、憲法２６条の教育を受ける権利、教育基本法３条「すべての子供が能力に合わせた教育を受ける権利」に合致するものである。

本市としては、本計画が教育基本上の理念及び学校教育法に示されている学校教育の目標を踏まえたものと判断する。